

## 6.13 提出レポート

石田 豊

### 1,形態素解析による学会講演と模擬講演の比較

学会講演と模擬講演の音声ファイルを形態素解析し、品詞の使用頻度を分析した。A から始まるものが学会講演であり、S から始まるものが模擬講演である。以下に棒グラフを示した。縦軸は使用頻度(%)を表す。棒グラフから読み取れる違いは大きく分けて3つある。まず、名詞(N)の頻度の違いが顕著に見られる。次に動詞(V)の使用頻度、そして感動詞(F)について着目する。

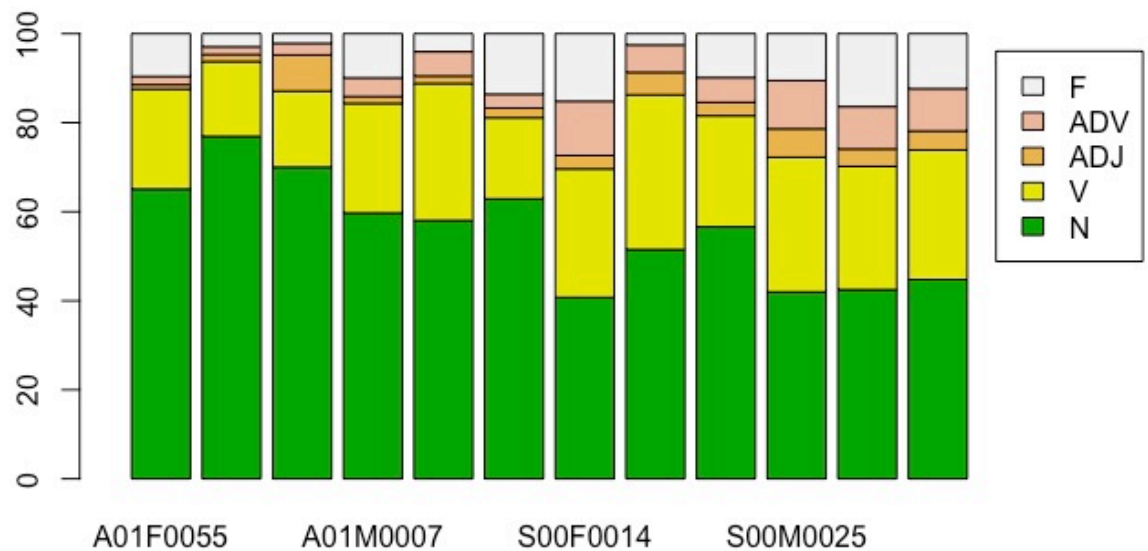


図 1：学会講演と模擬講演の形態素解析

## 2,形態素解析による学会講演の分析

学会講演の形態素解析を以下に示した。棒グラフ全体から読み取れることは名詞の頻度が平均およそ 60%程度であり、ほとんど名詞を喋っていたこととなる。また動詞の頻度は 20%程度である。そして感動詞は多い人で 10%程度であった。学会講演の特徴として、名詞の羅列が顕著に現れ、何々と何々と何々が何するというように名詞が長い傾向にあるのではないかと考える。また、感動詞が比較的割合が小さいことからえーやあーといった発言が少なく、間髪入れずに次の発言をしたと考えると口調が早い傾向にあったのではないかと考える

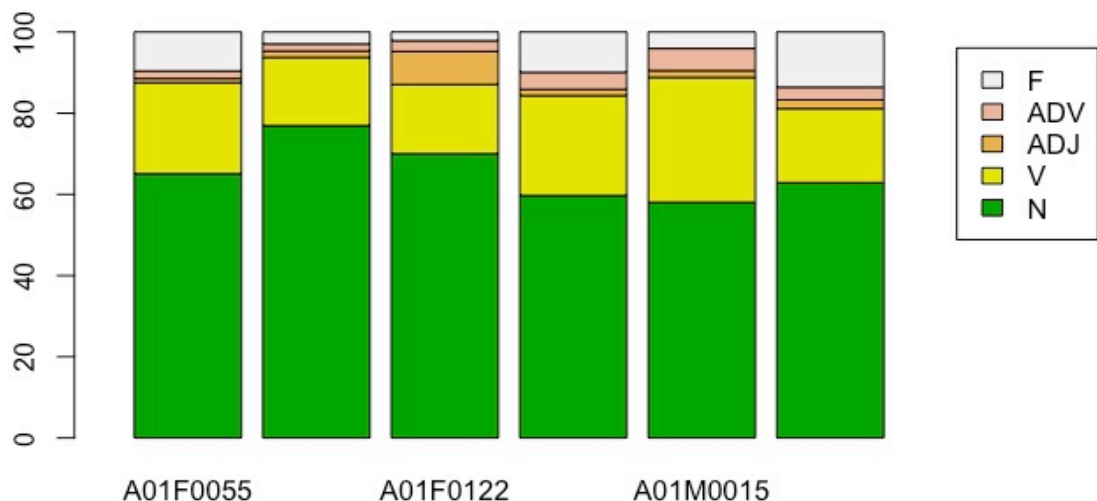


図 2:学会講演の形態素解析

### 3,形態素解析による模擬公演の分析

模擬公演の棒グラフを以下の図に表した。名詞の頻度はおよそ 40%であり、動詞の頻度はおよそ 30%、感動詞の割合は多い人で 20%近い割合であった。模擬公演の特徴は名詞と動詞の割合が近いためバランスよく使われていてより砕けたような発話がなされたのではないかと考える。感動詞の割合が平均的に高いことから見ても学会講演よりゆったりとした口調で発話していたように思える。

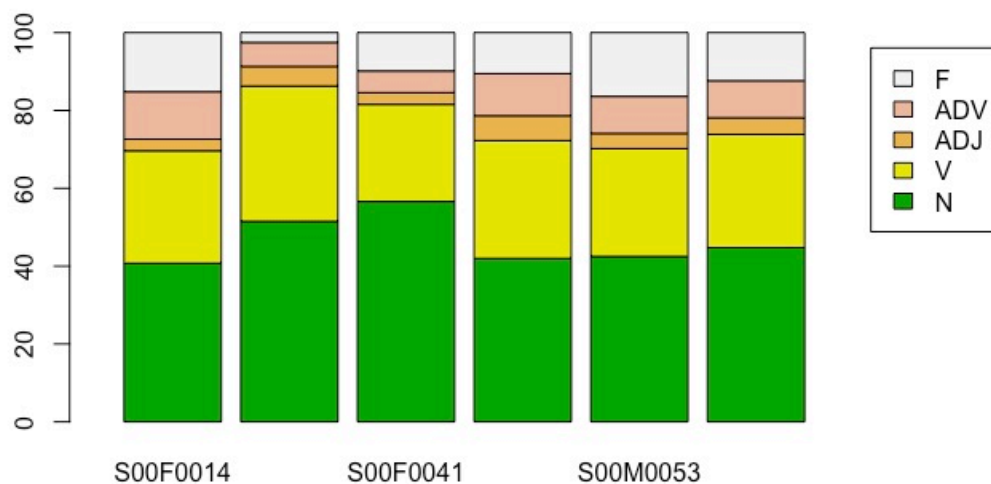


図 3:模擬講演の形態素解析